

『 大津通りにおける植栽提案 』（エリアカラーを表現するための提案）

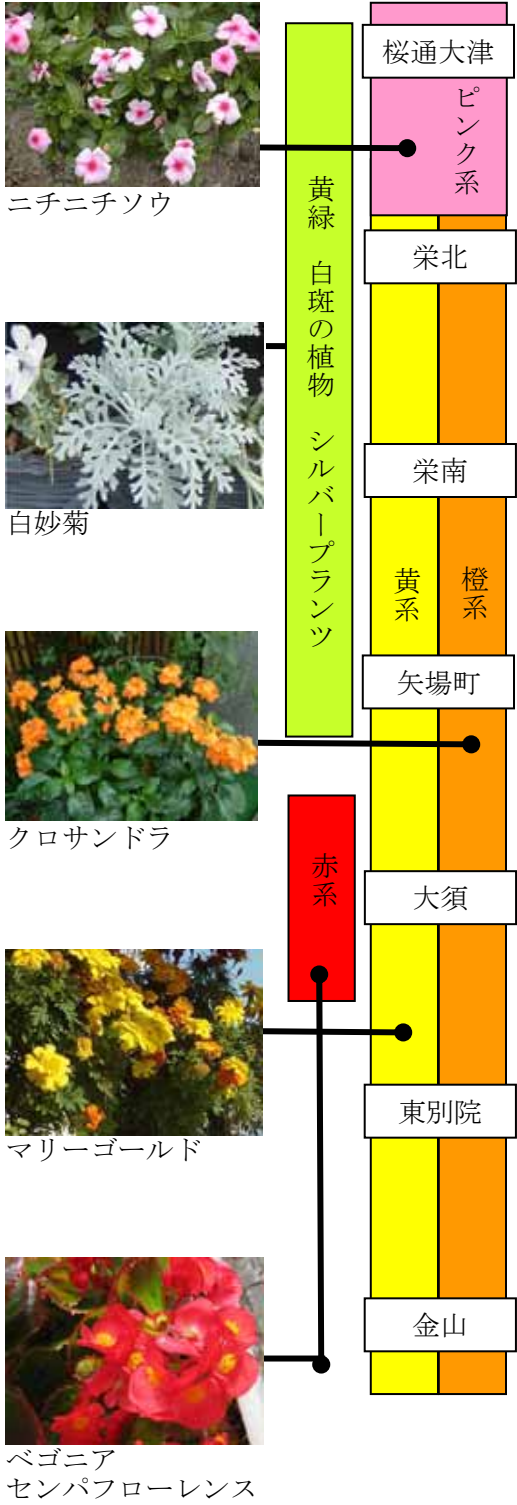
→草花の色別具体例については 植栽提案資料 参照

◆ ピンク系の植物
 桜通にふさわしい“しだれ桜”の木がシンボリックに植えられているので、花色を〔ピンク〕・〔白〕・〔赤〕を用い、ピンク系の植栽とし、桜通大津らしさを演出する。

◆黄緑、白斑の植物、シルバープランツ
 矢場町から桜通大津間は、調査結果から「賑わい」の中にも都会的な洗練されたイメージが感じられている。黄緑や白系の葉物（グリーン）で、都会らしい洗練された雰囲気をプラスする。

◆黄・橙色系の植物
 イメージスケール分析で東別院以外は、すべて、「賑わい」がエリアイメージとなった。そして、この街を何色にしたいか？の間には、緑が最も多かったが、緑以外では橙と黄がどのエリアでも上位に上がり、大津通全体の花色は橙と黄を共通色とする。矢場町の高架下の「はなとも」花運動の例に見られるように、整理された街を作ることができる。これを雑多な印象の金山に取り入れ、整然とした街の印象にしたい。東別院は、もの静かで寂しいという印象があり、楽しく明るい雰囲気作りのため黄や橙の花で「賑わい」を演出したい。

◆赤系の植物
 大須は、調査結果により赤の印象が強いので、ベースとなる橙、黄に加えて赤系の花を特長としてプラスする。



※記載した草花の種類は代表例